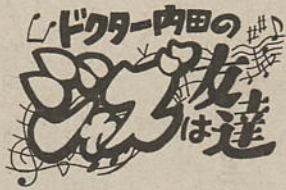


すざまじい演奏会

昨年暮れに上京した時のこと。用事を終えた僕が、いつものように、六本木のジャズスポット「ボディ&ソウル」に顔を出すと、運よく出演は「峰一板橋一井野一村上」のグループ。相変わらずのすざまじい演奏会

△③▽



まじい演奏にすっかり満足して、メンバーたちを向かいの中華料理店に誘い出した。すばらしい仕事をすませたあとの男たちに、酒はほどよくまわり、口もなめらかだ。「グループとしての演奏に、どうやら自信のようなものができたんで、レコードにしてみたいんじゃないかと、

考えはじめているんです。もっとも自主制作でスタートしなければならぬんだけれど。来年一月に、前回とてもしい雰囲気演奏できた鳥取にまた行くんで、今度はエリシニアも連れて行くかと

思ってるんです。レコード解説お願いしますよ。それに僕たちのバンド、まだ名前がないから、ついでに何か考えてほしいなあ」

そうか、やっつとCDしてくれるのか。この連中の生を耳にする機会のおつかしい地方の方たちにも、せめてCDで絶対、聴いてほしいからねえ。

そういえば、リーダー的存在がなくなつて、音楽的にもメンバー一人一人が同じ比重のバンドだからといって、いちいち四人の名前を並べなくちゃならないなんて、やっつぱり、ちょっと面倒だからなあ。

名実ともビッグに

そうそう「バンドネーム」といつことで思いついたんだと、今からちょうど二十年

名付けたバンドが
20周年記念の公演

前、名古屋に社会人ばかりのオーケストラが誕生した。学生時代に、東京の「ビッグバク人たち」「LABOURE」で日本一「コンテスト」で日本一に選ばれた「愛知学院スイング・オールスターズ」の

OBを母体にしたものだから実力十分だ。

訪れたリーダーに頼まれた僕は、考えた末「ナゴヤ・ジャズ・ラブ・オーケストラ」と命名した。「ジャズ・ラブ」とは、本来「ジャズ実験

室」(JAZZ LABORATORY)のこと。それに「働りもつれいのは、種々雑多の職業の人たちの集合体で「ラブ」と「LOVE」をも、連かも年とともに社会的にもますます重い責任を負う忙しい日常の中で、毎年一二回

だが、名付け親の僕が、何よもつれいなのは、種々雑多の職業の人たちの集合体で「ラブ」と「LOVE」をも、連かも年とともに社会的にもますます重い責任を負う忙しい日常の中で、毎年一二回

の定期リサイタルを欠かしたことがなく、今や名実ともに、この地方を代表するビッグバンドに成長した 것이다。そしてこじは結成二十周年記念リサイタルも予定されている。名譽顧問という肩書の僕は、何やら誇らしい気分

で、その着実な歩みを、ひそかに見守り続けているといっわけなのだ。

希望のテープ届く

お話は、少しばかり脱線してしまつたが、プロデュース役を買つて出て、なれない仕事にご苦労さまのドラムの村上寛から、希望のカセット三本が届いたのは、二月に入つてからのことだつた。そのテープに添えられて――。

「まる印をつけた曲目を選ぼうかと相談中ですが、ご意見を聞かせてください。やっぱりちよつと硬くなつてしまつて満足してないんですけれど。ライナーノートをよろしく。それにバンド名も忘れな



内田修さんが名付け親になったナゴヤ・ジャズ・ラブ・オーケストラ(3月12日、名古屋芸術創造センターで)